

会議名	第1回大甕・太田地区学校適正化検討協議会
日時	令和7年11月20日（木）18：30～20：00
場所	太田生涯学習センター 研修室
参加者（庁内）	教育長、教育委員会事務局長ほか
参加者（庁外）	大甕・太田地区学校適正化検討協議会及びオブザーバー 11名

【説明事項】（事務局一括説明）

以下の（１）～（４）の内容の概要について説明。

- （１）南相馬市の学校教育について **事前説明資料1**
- （２）大甕・太田地区学校適正化に係る市の方針について **事前説明資料2、3、4**
- （３）大甕・太田地区学校適正化検討協議会の概要について **事前説明資料5**
- （４）大甕・太田地区学校適正化に係るスケジュール等について **資料1**

①主要な意見

- 伝統的な行事活動といった特色は引き継いでほしい。農業や工業など将来の人生設計に関わる場にもなるのでは。義務教育学校にすることで中一ギャップっていうところを解消できるところも魅力的であると思う。
- 幼稚園と小学校の連携も大事にしてほしい。幼稚園と小学校のギャップもあり、ずっとのびのびと遊んでいたところ、小学校に上がって、急にお勉強みたいな感じになるのが不安である。
- 今、大甕幼稚園に太田の子どもも通園しているが、小学校に上がるタイミングで離れてしまうので、太田大甕と原三中が一緒になるのはその点で安心。

②質疑応答

No	委員からの意見	事務局からの回答
1	資料の中の「プログラミングロボット歩くメカトロウィーゴ」とはどういったものか。	市内の各学校に配置している15センチほどのロボットで、プログラミングすることで色々な動作が実行できるため、プログラミング的思考を養うために活用している。ロボット教材を使って、プログラミング教育に取り組んでいる。
2	歩くメカトロウィーゴは、実際に市内の学校で使用しているのか。	令和4年度から小高小学校で先行して導入、その後市内の小学校に配置している。

No	委員からの意見	事務局からの回答
3	小規模特認校を取り入れるとなると、太田大甕の特色を生かすのか、それとも別な市で行っている特色を取り入れるのか、その辺はどのように考えているのか。	現時点では義務教育学校にするのか、特色はどうするのかは、委員の皆さんで作り上げて、また学校や教育委員会との協議でも作り上げていく。 太田小では稲を作ったり、大甕小ではさつまいもを植えたり、また野馬追に関わる伝統行事・活動への参加などの特色がある。今後そういった太田・大甕の良さをどのように新しい学校に引き継いでいくか、皆さんで話していただきたい。 加えて、子どもたちにつけたい力を引き出すための何かがあれば、意見を出してほしい。
4	再編統合後でも子どもの数は減っていくため、他の学校から来てくれる子を増やすような特色は必要であると思う。また、中学校から制服で小学校は私服、などを決めていける感じなのか。	これからの話し合いの中で、例えば前期課程（小学校該当部分）は制服ではなく、後期課程（中学校該当部分）になってから制服にするとか、これを機会に前期課程の小学校の部分も制服にしたいなど、皆さんからご意見いただいたり、保護者の方から意識調査をさせていただいたりした結果で、方向性を決めていければと思う。
5	一緒になることのメリットはあるが、デメリットや不安に感じるところが保護者にあると思うので、そういう意見を拾っていく必要があると思った。	意見のとおりで、開校が決定したら、課題を最小化していくところを丁寧に行わなければならない。
6	小中学校と未就学児が連携している学校は全国的にあるのか。	幼稚園と小学校が一緒になっている学校はある。幼稚園が1階、2階3階が小学校になっている。

③決定事項・今後の対応など

教育委員会と協議会で、魅力ある学校作りについて検討していく。

【協議事項】

(1) 大甕・太田地区の教育が目指す子どもの姿について 事前配布別紙2を活用

大甕・太田地区の教育が目指す子どもの姿について、事前配布別紙2に記載した内容を基に意見交換。

①主要な意見

(i) 大甕・太田地区の教育が目指すこどもの姿

- 主体的に学習に取り組み、確かな学力を身につけ、自分の夢や希望を実現できる
- 他者を理解し、協力して取り組むことができる
- 地域（原町、大甕、太田）を愛し、地域のために活動することができる
- 学力も大事ではあるが、基礎体力がつくような教育を行ってほしい
- あたり前をしっかりとできる子ども（保護者も一緒に学んでいる環境）
- 基礎学力の定着
- 大甕・太田地区の良さを理解している
- 現在の子どもたちの特色を伸ばす
- 小学校、中学校の垣根を越えて、お互いにより影響を与えられるこどもたち
- 思いやりもあるこども
- 好きなこと、得意なことをのびのびできるこども
- 地域に愛着を持つ子
- 自己発揮をしながら周りの友達と協力して物事に取り組むこども
- 他の学校の子との触れ合いを通した多様性を理解

(ii) 実現するための教育環境

- 一人一人、個に応じた教育を行い、確かな学力を身につけることができる教育
- 異学年、同学年の交流を通して他者を理解し、協力することの大切さがわかる地域と連携した教育
- 地域を生かし、活用し、地域の良さがわかる地域と連携した教育
- いろんな機会に触れる、いろんな可能性に触れる機会が多ければ多いほどいい
- 田植えや野馬追などいろんな機会を体験できる
- オンライン授業などの選択肢、通いやすい学校づくり
- プログラミング学習
- 法螺貝などの伝統を継承
- 一人一人が主役になれる
- 地域住民との接点を持ち続けてほしい
- 地区外から子どもを呼び込める教育
- 自ら発表できる、表現できる環境
- 5年後、小中一貫の際に多く関わってくる未就学児の保護者の方の不安、問題を取り除いていくのが重要と考えます
- 地域住民の触れ合い交流（馬、田植え、etc.）
- 異学年交流
- 幼稚園と小学校の交流

- 「田舎だから」、「人数が少ない」などという理由で諦めることなく、やりたいことに挑戦できる教育環境
- 幼稚園と小学校の交流
- 地域資源を活用した教育（田植え、相馬野馬追等）
- 報徳仕法を学ぶ
- 他学校・地域との交流
- 異年齢での活動（ふるさとクラブと吹奏楽部）
- 農業（稲作）や工業（ロボテス）を活用したキャリア教育
- 幼小接続

②質疑応答

特になし。

③決定事項・今後の対応など

今回出された意見を基に、次回改めて協議。

【次回会議の予定】

令和7年12月23日（火）開催予定。